

刻む会 たより

NO. 68

2018 年 3 月 26 日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九（宇部緑橋教会内）

TEL 0836（21）8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 01590・7・32405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

《正会員》個人3,000円 団体5,000円

《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

メール

kizamukai@chouseitankou.com

第1回遺骨收拾及び返還のための国政府との交渉報告

事務局長 小畑太作

去る2月8日（木）14時00分～15時30分、参議院議員会館101号において、「意見交換会」という形で第1回目となる国政府との交渉を行った。仲介の労を執って下さった、福島みずほ参議院議員にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

当日は午前中に、太平洋戦争被害者補償推進協議会による朝鮮半島出身戦没者の遺骨問題についての国政府（厚労省）への申し入れが行われ、当会からもこれに参加したこともあり、その流れで午後の「意見交換会」にも参加して下さった市民が多数いた。

国政府は内閣官房、外務省、厚労省、経産省から各1名乃至2名の出席で計6名、国会議員は野党三党から3名と秘書1名、午前中からの参加者が7名、そして「刻む会」として4名の、合計21名での意見交換会となった。

この度は、第1回目であり先ず手はじめとして、民間徴用者遺骨問題の現況と、その中で長生炭鉱水没事故犠牲者遺骨問題に対する国政府の認識を確認し共有すること、また当会の取り組み状況の確認と共有を第一の目標とした。そして第二の目標としては、長生炭鉱水没事故犠牲者遺骨問題への取り組みの必要性の確認と共有、更に状況を見て可能であれば、今後の具体的な施策を共有することとしていた。結果としては、第一の目標をほぼ達成したことに加えて、第二の目標についても、「一職員として」という前置きはあったにしろ「検討の余地あり」との言質を得ることが出来た。今後については、国政府として現地に足を運んで現場を見て欲しい旨、当方から強く要望すると共に、「意見交換会」は第二回に継続することを申し合わせて会を閉じた。

思い起こせば、「いずれは国政府との交渉を！」との目標を掲げたのは、「刻む会」が再組織化された2014年開催の第1回総会においてであった。目的は、遺骨收拾と返還のためである。勿論、交渉すればそれが適うと考え



状態にあるもの」に絞り込んでしまっている。これに日韓関係の不調という「環境要因」が加わり、この当初予定すらも、国政府レベルでは返還には至っていない状況である。長生炭鉱水没事故犠牲者の遺骨を、収拾し返還しなければならぬという認識に国政府が至るには、いくつもの越えていかねばならないハードルがある。

もっとも一応記しておくが、「環境要因」と述べたが、実はそれそのものが国際親善の課題なのであり、問題の核心は、要するに課題に向き合わないということに他ならない。更には、その事抜きで前に進めようとするために悪循環に陥り、自前で、課題をより複雑化してしまっているのである。

さて、「刻む会」は、そうした状況の中、しかし課題の解決のために国政府への交渉へと漕ぎ出した訳であるが、交渉という言葉は問題解決の手段以前にしか過ぎないこの事が、この時まで実現しなかった主な理由は、政府に打診する以前の紹介議員への依頼に時間を要したためである。当初「刻む会」は、問題の早期解決を求めて与党議員に、従って主に自民党議員に、しかし地元選出議員ならば地元の課題として協力を得られるかも知れないという期待を抱いて依頼の交渉に臨んだが、待てど暮らせど回答はなく、結局、具体化へは至らないということが繰り返された。

そうした中で、福島みずほ参議院議員から連絡があった。福島議員は、既にこの問題を承知しており、経産省や厚労省からの聴き取りも行

っており、しかし詳細が不明のため協力して欲しいという。逆の協力の申し出に当惑しつつも、当然、当会としても前述の通り国会議員の協力を得たかったところ、直ぐさま協力関係を構築し、この度の「意見交換会」へと漕ぎ着けた次第である。

福島議員の動きの背後には、地元の市議会議員や県議会議員の働きがあったことを、そして、その提言に耳を傾けた福島議員がいて事柄が動いていることを明記しておきたい。それは、この会報誌を読んでいる人々が、小さくても聞くべき言葉に耳を傾けたことと同じである。そしてその言葉は、この度確かに日本国政府に伝えられた。しかしそれは未だ一部である。より丁寧な、また粘り強く、今後も声なき声を、日本国政府に届けていく所存である。皆様のお力添えを切にお願い致します。



仁比聡平議員（左） 福島みずほ議員（中）
近藤昭一議員（右）

活動日誌（前回たより以降）

※太字：詳細は記事にて紹介

2017年

▽12月17日（日） 第9回手作り交流まつり打ち合わせ会

▽12月13日（水） 山口朝鮮初中級学校補助金力ツトに対する座り込み・座談会

▽12月15日（金） 第9回運営委員会

▽12月22日（金） 第37回長生炭鉱水没事故問題解決協議会

2018年

▽1月10日（水） 山口朝鮮初中級学校補助金力ツトに対する山口県庁前座り込み・座談会

▽1月12日（金） 第10回運営委員会

▽1月18日（木） 韓国よりFW（2名）受入

▽1月19日（金） 76周年追悼集会前日準備

▽1月20日（土） 76周年追悼集会

▽1月21日（日） 韓国・遺族会との懇談会

▽2月8日（木） 第1回遺骨収拾及び返還のための国政府との交渉（東京）

第4回韓国人戦没者遺骨返還についての厚労省との意見交換会（東京）

▽2月14日（水） 山口朝鮮初中級学校補助金力ツトに対する行動月間行動及び山口県知事・山口県教育庁への抗議行動及び記者会見

▽2月15日（木） 行動月間行動・情宣

▽2月17日（土） DNA鑑定専門家との意見交換会（大阪）

▽2月17日（土） 第9回手づくり交流まつり

▽2月20日（火） 第38回長生炭鉱水没事故問題解決協議会

▽2月23日（金） 第11回運営委員会

▽2月27日（火） 日帝強制連行朝鮮人犠牲者遺骨奉還追慕法要（東京）

▽3月1日（木） 日朝協会学習会講師派遣証言聞き取り

▽3月6日（火） 大阪同和・人権問題企業連絡会FW受入

▽3月9日（金） 山口県庁国際課との話し合い

▽3月16日（金） 第12回運営委員会

▽3月23日（金） 『刻む会たより No. 68』発送作業

▽3月26日（月）

76周年犠牲者追悼集会報告 ―遺族22人をお迎えして―

共同代表 内岡貞雄

今年の追悼集会は平昌オリンピックの
関係もあり1月20日(土)に早まりました。
すでに予定を立てられていた方もあった
ようで、例年より参加者が少なかったこと
は申し訳なく思っています。

当日は小春日和に恵まれ、韓国遺族会20
人をはじめ、尹玉基(ユン・オクキ)様、
沖縄から島袋隆様に参列いただきました。
遺族会代表・金亨洙(キム・ヒヨンス)様、
駐広島大韓民国総領事・金宣杓(キム・ソ
ンピョ)様からのご挨拶、また「刻む会」
共同代表の挨拶にもありましたが、「海底
下の遺骨収集の実現」を異口同音に強く訴
えられました。「刻む会」は二年前の74周
年追悼集会を「遺骨収集元年」と位置づけ、
一歩一歩堅実な取り組みを進めています。
今年二月には国・政府と初めての協議を行
ない、同時に山口県と宇部市にも国への働
きかけを行なっていただくよう協議を進
めています。今後とも皆さま方のご支援を
お願いいたします。

島袋隆(那覇市在住)さんの証言

76周年追悼式に出席させていただきま
した。父貞治(犠牲者貞清さんの甥)が、
昨年12月に亡くなりました。その三週間前

に内岡さんが沖縄に来られ、父のDNA検
体を病院内で行いました。私は大叔父がど
んな場所でお亡くなりになったのか自分
の目で見ておきたかった。実際に現場を見
て事故の悲惨さを知ることができました。
沖縄と全然違う寒い海で大叔父も大変だ
ったんじゃないか、早く故郷に連れて帰っ
てあげたいと思いました。

週記 1月21日沖縄タイムスに島袋さんの記事が掲載。

第一部

- ・ 開会挨拶
- ・ 遺族会代
表挨拶
- ・ 遺族紹介
- ・ 来賓紹介
- ・ 追悼の辞
- ・ 閉会挨拶
- ・ 献花

(金聖伽那那琴
園合奏)

第二部

韓国・観音
宗による
追悼行事



来日した韓国・遺族会の皆さん



遺族会代表
金亨洙(キム・ヒヨンス)氏

遺族・尹玉基(ユン・オクキ)さん



沖縄在住の遺族・島袋隆さん



韓国内で発刊されて
いる児童書『角が出
た海』作者・朴禮粉
(パク・イエブン)さん



駐広島大韓民国総領事
金宣杓(キム・ソンピョ)氏



朝日新聞の記事

沖縄出身者の遺族
初めて追悼式参列
宇部の長生館で事故
現場を再現した追悼式に、初めて参列した遺族らが、追悼式に参列した。追悼式は、長生館で事故現場を再現した。追悼式に参列した遺族らが、追悼式に参列した。



司会挨拶:井上洋子共同代表(右)
閉会挨拶:内岡貞雄共同代表(左)



韓国・観音宗による追悼行事

強制徴用犠牲者の遺骨33柱韓国へ奉還 に 東京「国平寺」で追慕法要

共同代表 井上 洋子

日本による植民地時代に強制徴用された朝鮮半島出身者の遺骨奉還追慕法要が2月27日に東村山市の「国平寺」で営まれた。

在日韓国・朝鮮人のお寺である「国平寺」には強制徴用された犠牲者など、朝鮮半島出身者約300人の遺骨が安置されており、そのうち身元が確認された101柱の内、昨年遺骨33柱が返還されたのに引き続き、この度も33柱を韓国に奉還する運びとなった。

韓国では、ソウル・光化門広場で国民追慕祭が行なわれ、行事には韓国7大宗教関係者や市民が多数参加した。奉還された33柱のご遺骨は、ソウル市の協力を受け、3月2日ソウル市立昇華院に無事安置された。

「国平寺」での法事には「刻む会」が招待されて、金静媛委員と井上が参列した。韓国からは僧侶をはじめ市民が21名来日されており、日本側は、地元の朝鮮学校の学生や在日の関係者等100名余が参列した。読経供養の後、挨拶の冒頭に井上が追悼の辞を次のように捧げた。

「・・・本来、日本政府が政府の責任において遂行すべきご遺骨の奉還が、戦後73年を経てなお、このような形でしか実現さ

れないことに、日本人として本当に申し訳ない気持ちで一杯です。しかし、いよいよ明日、故国の人々の胸に抱かれて、ようやく待ちわびたふるさとに帰られます。国では皆様方を温かく迎え、やさしく包み込んで下さることでしょう。それは同時に、死者の尊厳がよみがえり、皆様方の命の存在が故国の歴史に刻まれる一瞬となることでしょう。残念ながらその場に立ち会うことはできませんが、ご遺骨の皆様方に永遠の安らぎが訪れますよう祈念申し上げます・・・」

続いて長生炭鉱の悲劇についてご紹介申し上げた。参列者の中には犠牲者を思い、涙される方々もおられた。

明くる日はホテルを早朝4時30分に大型バスで出発して羽田空港へと向かった。その折、「ご遺骨のひとつを私も抱かせていただいたが、なんとそのご遺骨の命日は「2月3日」であり、くしくも長生炭鉱の水没事故と同じ日だった。この偶然は何かの力に導かれたかのような衝撃だった。異国の地でおそらく語り切れない程の苦難の生涯を終え、引き取る縁者もおられないご遺骨の方々の人生を思うと、やり切れない気持ちで一杯だった。そして9時発の飛行機で韓国へと旅立って行かれるのを見送った。

長生炭鉱の犠牲者のご遺骨もいつの日か近い将来に必ず故国に奉還できるように、あらゆる機会を逃さず、精力的に訴え

ていきたいと心に誓った。「国平寺」住職ご夫妻の働きに深い感銘を受け、また心温まる接待に感謝を表し報告としたい。



法要で挨拶をする井上洋子
共同代表



フィールドワーク報告

―現地を歩いて感じたこと―

大阪同和・人権問題企業連絡会（第二グループ）

共同代表 内岡貞雄

3月9日（金）、13名の参加者の皆さんと「刻む会」3名でフィールドワークを実施しました。さっそく感想をお寄せ下さいましたので掲載いたします。

○私は同企連に参加して1年目で初めての参加です。全国には様々な炭鉱があり、さまざまな歴史があるのだなと思います。

○戦時中、強制労働と人権無視の労働の様子を伺い知ることができました。「きつい・きけん・きたない」3Kの言葉ではとても言い表せない労働実態で、名前ではなく「2201」という番号で呼ばれていたそうです。こうした人々の犠牲を土台にして私たちの今の生活が成り立っていると思った。

○長生炭鉱フィールドワークは2回目です。前回より開けていた感がありました。（④草刈りを広くしていたからでしょう）ありがたいとございました。ただ寒くて体調不良を起こしかねず、そのあたりを少しご配慮いただけたら有り難かったですと思いました。

○今回初めて長生炭鉱を訪れました。朝鮮半島から渡ってきた朝鮮人の労働者が

70年以上も前の海底炭鉱の事故で犠牲

になったことを知りました。広く伝えていかなくてもならないと思います。

○近代日本の歴史、その一面を知った一日でした。「強制連行」の四文字は狭義でも広義でも後の歴史に影響が出るようにも思います。「真実」を残すということは大事だと思っています。

○今もなお海底下に遺骨が眠っていることを悲しく思います。早く引き揚げが行なわれたらと思います。今後絶対に人災を起こしてはいけないとも思いました。

○先の戦争の犠牲となった方々の慰霊のために熱心に活動（行動）している皆さんの姿に感動でした。

○厳しい寒さの中でお話を聞かせていただきありがとうございます。歴史の中の一つの大きな事故でしたが、風化させることなく語り続けられていることを嬉しく思います。

「刻む会」の参加者が石炭記念館学芸員さんや地元の方とお話できたことは良かった（内岡）。



長生海岸で献花
(2018年3月9日)

『刻む会たより No. 67』訂正

以下、修正してお詫びいたします。

☆P2 「宇部市の答弁」内容 3行目後ろ 「坑内で働かされて」→「坑内で働かれて」

※この部分については、12/22に開催された「第37回長生炭鉱水没事故問題解決協議会」にて宇部市より指摘を受けました。

「さ」という一言が入るだけで、個人の意思に基づくものか、他者からの強制なのかと意味が異なります。細かいところまで読みいただいたことに感謝申し上げますと共に、この指摘は宇部市の立場をはっきり示すものでした。

「刻む会」の立場はあくまで「働かされていた」方々です。

宇部市長にもこの立場に立っていただけるよう、今後も頑張りましょう！

運営委員会報告 2017年11月24日〜2018年3月18日

事務局長 小畑太作

【委員会会議開催】

- ① 第9回 12月15日（金）欠席2名
- ② 第10回 1月12日（金）欠席1名
- ③ 第11回 2月23日（金）欠席2名

【追悼ひろば】

- ① 韓国美術家による絵画設置を検討実施。
- ② パンフレット設置の検討実施。

【長生炭鉱水没事故76周年犠牲者追悼集会】

- ① 企画検討実施。
- ② 次回について検討協議。

【遺骨等収集】

- ① 国政府との交渉の調整連絡の上、2／8実施。
- ② データベースを引き続き拡充中。日本人（沖縄）1名のDNA検体採取。その後死亡。

【学習会等】

- ① 大阪同和・人権問題企業連絡会フィードバック受入（13名）

【証言・関係資料収集発行】

- ① 過去の炭鉱内居住者1名の聴き取り実施。
- ② 映像と紙資料のデジタル化の作業継続。
- ③ 韓国で出版されている『角が出た海』の日本語版出版の翻訳作業を新たな翻訳協力者を得て再開。

- ④ 紙芝居「アボジは海の底」のオリジナル映像化を実施継続。
- ⑤ （仮称）フィードバックノートとオプシオンプログラムについて継続検討中。

【行政交渉】

- ① 宇部市当局との第37回協議会開催 12／22「宇部市総合福祉会館」
- ② 宇部市当局との第38回協議会開催 2／20「宇部市総合福祉会館」
- （1）ピーヤの説明板設置 市長の議会答弁を受け一部修正か全面改定かを協議。継続。
- （2）ピーヤ等の保存 相変わらず所有者と経費を理由に市側は指定に難色因みに山口県も同様とのこと。護岸工事によるデメリットを確認。
- （3）追悼集会への協力 進捗なし。
- （4）市民への教育 フィールドワークの際に学芸員と協議する方向で。
- （5）遺骨等の収集と返還 国政府との協議について共有。協力関係を模索。
- （6）追悼碑への協力 進捗なし。
- ③ 山口県当局に改めて遺骨収拾と返還他について申し入れ実施（12／13）。これを受けて山口県当局は1／30に宇部市当局と共に国政府との協議を実施。3／16、県庁において県庁国際課から国政府との協議の内容について報告を受け、当方からの要望を改めて確認した。要望は以下の4項。①遺骨

収集について、国政府の取り組みについて課題の整理。②遺族の遺伝子情報収集について立法措置も含めて検討・協力。③追悼集会への参加・挨拶・代表献花、遺族会との会食、検討。④ピーヤの保存について協力。

- ④ 県議会議員との懇談会 実施する方向で検討。
- ⑤ 市議会議員との懇談会 3／26に実施を予定。

【山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題】

- ① 朝鮮学校を支援する山口県ネットワークの加盟団体として、県知事（原則毎月第2水曜日）と下関市長（原則毎月第4火曜日）への要請行動に参加。
- ② 全国行動月間行動2／14〜15に参加協力。
- ③ ネットワークのHPと会計を引き続き担当。

【他団体との連携】

- ① 人間いきいき研究会主催「切手まつり」2／17〜18に協力。
- ② 人間いきいき研究会主催、韓国・プチョン市の中高中生来訪交流の受入検討。
- ③ 真相究明ネットワーク全国集会上に派遣を検討。
- ④ 2018年度定期総会の企画検討。



【一般会計】

	科 目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
	歳入					
1	会費	400,000	70,000	504,000	126.0%	
2	寄付金	1,000,000	344,306	924,454	92.4%	※
3	物販	40,000	14,600	41,300	103.3%	
	証言・資料集	20,000	12,600	39,300	196.5%	
	その他	20,000	2,000	2,000	10.0%	
4	雑収入	5,000	0	3,740	74.8%	
5	前期繰越金	0	0	0		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合 計	1,445,000	428,906	1,473,494	102.0%	

	歳出					
1	事務費	60,000	7,908	50,803	84.7%	
2	広報費	220,000	43,460	138,565	63.0%	たより印刷送料
3	会議費	30,000	0	30,000	100.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	1,069	4,782	47.8%	電気代
5	活動費	750,000	719,396	814,831	108.6%	
	学習会等	70,000	1,931	49,126	70.2%	FW 献花
	追悼集会	500,000	605,385	605,385	121.1%	
	その他活動	180,000	112,000	160,320	89.0%	翻訳者謝礼他
6	他団体会費等	40,000	5,000	38,000	95.0%	関東大震災時朝鮮人虐殺の真実を知り追悼する神奈川実行委員会
7	雑支出	35,000	8,258	22,884	65.4%	
	手数料	25,000	6,876	16,502	66.0%	
	その他	10,000	1,382	6,382	63.8%	弔電他
8	予備費	50,000	0	0	0.0%	
9	特別会計へ繰出	250,000	0	0	0.0%	
	小 計	1,445,000	785,011	1,099,865	76.1%	
10	繰越金	0	-356,105	373,629		
	合 計	1,445,000	428,906	1,473,494	102.0%	

※ 寄付者（敬称略）

市川真美恵 宇都宮健児 大黒 春江 大隅 督子 岡崎 絹江 金澤 正善 杵渕 智子
 香渡 清則 佐々木明美 島袋 隆 島村真知子 白川 猶子 澄田亀三郎 田中 花子
 谷本 育紀 崔 玉 任 崔 東 基 塚田 勲 中村 証二 中村 満吉
 西森 邦子 林 修二 福川 寿子 藤井 泰子 森次美代子 安村モミヨ 山内 弘恵
 山本 勝己 吉中 博志 渡邊 利絵 在日大韓基督教会小倉教会 在日大韓基督教会西南地方会社会部
 在日本朝鮮人総連合会山口県本部 在日本大韓民国国民団 山口県宇部支部
 在日本大韓民国国民団 山口県地方本部 在日本朝鮮人総連合会 宇部小野田支部
 日本基督教団兵庫教区教育部女性委員会 大阪市立大学 （その他匿名 15 名）

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,728,116		絵画設置	96,000	
繰入金	0		繰越金	1,632,116	
合 計	1,728,116		合 計	1,728,116	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,653,234		DNA 検体採取鑑定	54,700	
繰入金	0		繰越金	1,598,534	
合 計	1,653,234		合 計	1,653,234	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

第9回手づくり交流まつり 使用済み切手でボランティア

2月17～18日(土、日)に防府駅前のアスピラート1F ロビーにて9年前から開催されている企画に「刻む会」も4年前から協力しています。この企画は、JOCs(公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会)が使用済み切手を集めて切手コレクターに販売し、そのお金でアジア・アフリカ地域に医療従事者を派遣し、支援するという目的で始められました。今回は、いろいろな活動を紹介する場も兼ねて、JOCs と人間いきいき研究会、まんま会(防府)、「刻む会」を協力団体として、実行委員会を構成しました。

今年もいろいろな活動紹介の一つとして「刻む会」のコーナーを設け、パネル展示をしました。また、DVD「アボジは海の底」上映も行いました。今年は小1～中学生の子ども達が常時ボランティアでお世話をしてくれて、長生炭鉱の説明もしっかり聞いてくれました。



パネル展示(上)と長生炭鉱の問題について子ども達に説明をしている人間いきいき研究会の森法房さん(右)



皆様のご参加をお待ちしています！

4月19日 第39回長生炭鉱水没事故問題解決協議会

参加ご希望の方は、事務局まで事前にご連絡ください。

5月4～6日 韓国・プチョン市の中学生受け入れ・交流 西法寺にて宿泊
プチョンの中学生と一緒に春のフィールドワーク
(同封のチラシ参照)

5月26日 第5回定期総会 14:00～15:30 宇部緑橋教会にて
会員の皆様には5月中旬に議案書をお送りします。
お早めに、出欠のご連絡をよろしくお願いします。

なお、総会終了後、真相究明ネットワークが作成した『日韓市民による世界遺産ガイドブック』・映像版と新作DVD『アボジは海の底』の上映を行う予定です(15:30～16:30)。こちらもぜひご参加ください。

たより同封物

春のFW チラシ
振替用紙

いろいろ困難なこともありますが、力を
合わせ一歩一歩がんばりましょう！

